令和 5 年度 第 1 回 西新宿スマートシティ協議会 議事要旨

日 時： 2023 年 6 月 29 日（木）13:00～13:45

出席者： 一般社団法人新宿副都心エリア環境改善委員会

(敬称略) 小田急電鉄株式会社

学校法人工学院大学

KDDI 株式会社

住友不動産株式会社

損害保険ジャパン株式会社

大成建設株式会社

東京ガス株式会社

東京ガスエンジニアリングソリューションズ株式会社

独立行政法人都市再生機構

株式会社 NTT ドコモ（NTT コミュニケーションズ）

株式会社 JTOWER

ソフトバンク株式会社

東日本電信電話株式会社

楽天モバイル株式会社

新宿区

東京都 デジタルサービス局

東京都 都市整備局

東京都 産業労働局

開催方法： オフライン・Web 併用

場所： 東京都庁 第二本庁舎 31 階 特別会議室 25

議 題：

1. 開会の挨拶
2. 協議会参加者の紹介
3. 前回の協議会の振返り
4. 承認事項
5. 部会活動方針の提案
   - 5-1.スマートサービス実装部会
   - 5-2.広報・コミュニティ部会
   - 5-3.データ利活用部会
6. 活動スケジュール
7. 意見交換
8. 閉会の挨拶

資 料： 1. 第 1 回協議会資料

1. 開会の挨拶（事務局）

■ 議事次第（P.1）

■ 開会の挨拶（P.2）

（東京都デジタルサービス局）

○ 今年度第 1 回目の協議会となるが、昨年度実施していた PT や TF を再編し 3 つの部会を実施していく方針としたため、昨年度よりもさらに整理された中で協議会の活動が深まればと思っている。

○ 昨日、新宿での自動運転レベル 2 の走行に関するプレスリリースが出ており、スマートサービスが実装に向け進んでいることを実感している。

○ 将来的には西新宿でスマートシティを体感できるような、最先端のサービスが西新宿に集結している絵姿を実現するためにも、本活動が西新宿で実りある成果に結びつくような活動になればと考えている。

2. 協議会参加者紹介（事務局）

■ 協議会参加者の紹介（P.3）

3. 前回の協議会の振返り（事務局）

■ 前回の協議の振返り（P.4-6）

4. 承認事項（事務局）

■ 承認事項（P.7-11）

○ 今年度からの協議会組織体制の変更に伴い、協議会設置要綱を変更したく、説明する。協議会が自立した組織として継続的に運営していくことを目指すにあたり、活動意欲の高い構成員を中心とした組織にしていく必要があると考えている。

○ 第2条は、協議会設置の目的に関する記載を更新している。

○ 第3条では、これまでオブザーバーとして参加していた角川アスキー総合研究所、ジョルテ、東京電力パワーグリッドの 3 社を新たに構成員として追加したいと考え、別紙構成員一覧を更新している。

○ 第4条では、協議会の招集に関して、有識者等の構成員以外のオブザーバーが参加する場合の規定を追加している。

○ 第5条では、協議会をより自立的な組織として運営していくことを目指し、意欲の高い構成員が集う組織とすべく、協議会への入会・退会に関する規定を追加している。入会にあたっては、企画書を提出し、構成員の承認を得る必要がある。また、退会についても構成員の承認が必要となるが、1 年間で 1 度も協議会に出席しなかった場合は自動的に退会となる。

○ 第6条では、構成員の役割を明記しており、協議会の目的達成に向けて活動を行うこと、企画書を提出すること、年に1度活動報告書を提出することを定めている。

○ 第7条では、協議会組織体制の変更に伴い従来プロジェクトという名称で実施していたものを部会

へと変更し、部会参加者について定めている。

○　新しい協議会構成員の一覧案の変更点としては、昨年度までオブザーバーとして協議会に参加していた角川アスキー総合研究所、ジョルテ、東京電力パワーグリッドの 3 社が新たに構成員として追加される点である。3 社は昨年度まで中長期プロジェクトのリーダーとして西新宿の課題解決に取組んだ実績があり、今年度も継続して各社が活動を推進いただき、構成員として協議会に対して高いコミットメントを発揮いただくことが望ましいと考えた。各社の意向を確認し、新たに構成員として追加することが妥当であると判断している。

○　協議会設置要綱の変更および構成員の追加に関して異議申し立てがないため、協議会設置要綱の変更および構成員の追加に関して承認頂いたとみなす。

5.　部会活動方針の提案（事務局）

■　スマートサービス実装部会（P.12-15）

○　まちの課題解決のためにスマートサービスの着実な実装を目指す、スマートサービス実装部会の体制は、協議会事務局と先端サービス実装・産官学コンソーシアム事務局が中心となり運営することを予定している。

○　役割に関しては、協議会事務局が中心となり、部会運営を企画・主導し、コンソーシアムの事務局、分科会と連携して、実装に向けた各分科会が抱える課題や進捗状況などについて共有してもらうことを予定している。

○　スマートサービス実装部会の目標は「まちの課題解決や魅力向上に役立つスマートサービスの着実な実装」であり、目標の達成度を測る指標として、KGI とそれに至るまでの成果指標としての KPI の素案を設けている。KGI については、「取組が西新宿の課題解決に役立っていると回答いただいた割合」を想定しているが、これについては協議会が実施するアンケートを通じて確認していく予定である。

○　KPI については、「コンソーシアムへの参画企業・団体数」、「実装を目指す分科会の数」、「解決に着手している西新宿の優先課題の割合」を想定している。なお、各指標で目指す数値に関しては、今後部会の中で議論・検討し、第 2 回協議会の場で進捗と合わせて報告させていただく予定である。

■　広報・コミュニティ部会（P.16-18）

○　多様な人々が参加する地元主導のまちづくりコミュニティの充実を目指す、広報・コミュニティ部会の体制については、協議会運営事務局と広報・コミュニティ関連の取組を行う事業者による活動を予定している。

○　参画事業者に関しては、昨年度までの中長期プロジェクトにおいて広報・コミュニティと親和性の高いプロジェクトを推進いただいた事業者を現時点では予定しており、具体的には、小田急電鉄、ジョルテ、角川アスキー総合研究所を想定している。

○　役割に関しては、協議会事務局は部会運営を企画、主導し、参画事業者の皆様には、各自のイ

ベントやコミュニティの取組を推進いただくとともに、コミュニティ活動についての課題の共有や意見交換を行っていただく予定である。

○ 広報・コミュニティ部会の目標は「多様な人々が参加する地元主導のまちづくりコミュニティの充実」であり、目標の達成度を測る指標として、KGIとそれに至るまでの成果指標としてのKPIの素案を設けている。

○ コミュニティの充実度を測るKGIしては、アンケートを通じた「コミュニティ活動の満足度」を設定しており、そこに至るまでのKPIとして、「協議会の認知度」、「コミュニティメンバー数」、「生活者意見のヒアリング回数」、「生活者意見を反映した施策数」、を設定することを想定している。

○ コミュニティの充実に向けて、まずは協議会を認知してもらい、その上で協議会活動に参加するコミュニティメンバーになっていただき、西新宿のまちづくりに関する意見を収集、反映していくことを考えている。成果の実現に向けてはこちらに記載の論点・取組事項について部会内で議論し、取組に反映していく予定である。

○ 例えば、広報・コミュニティ活動で優先してアプローチするターゲット層や、ターゲット層に情報を届けるための広報媒体の役割などについて部会内で議論し、施策に反映したいと考えている。なお、各指標で目指す数値に関しては、今後部会の中で議論、検討し、第2回協議会の場で進捗と合わせて報告する予定である。

■ データ利活用部会（P.19-21）

○ エリア内の様々な都市情報を活用するデータ利活用の推進を目指すデータ利活用部会の体制については、協議会運営事務局とデータ利活用の取組を行う事業者による活動を予定している。

○ 参画事業者に関しては、昨年度までの中長期プロジェクトにおいてデータ利活用と親和性の高いプロジェクトを推進頂いた事業者を予定しており、具体的には、JTOWER、東京電力パワーグリッド、東京ガス、東京ガスエンジニアリングソリューションズを想定している。

○ 役割に関しては、協議会事務局は部会運営を企画・主導し、参画事業者は各自の取組を推進頂くとともに、部会の中で進捗や課題を共有したり、意見交換に参加したりしていただく予定である。

○ 目指す成果や、部会の中で扱う論点案については、データ利活用に関しては長期的な取組となるため、掲げている目標「エリア内の様々な都市情報を活用するデータ利活用の推進」については、2040 年代での実現を目指したいと考えている。

○ 段階的目標として 2030 年代には「エリア内のデータを活用したサービスが創出されている状態」を目指しているため、今年度においては、データを活用したサービス創出に向けた準備段階と位置付け、データ収集、データ利活用の視点から指標を設定している。具体的に、データ収集に関しては「データ連携の見込みが立った企業・団体数」や「データの種類」、データ利活用に関しては「西新宿のデータを使ったサービス案」や「西新宿エリア OS の新規ユースケース数」を設定することを想定している。

○ また成果の実現に向けては、こちらに記載の論点・取組事項について部会内で議論し、取組に反映していく予定だ。例えば、データ利活用に向けて西新宿で収集すべきデータ、巻き込むべき関係

者を検討、整理することなどを想定している。なお、各指標で目指す数値に関しては、今後部会の中で議論、検討し、第 2 回協議会の場で進捗と合わせて報告する予定である。

6. 活動スケジュール（事務局）

■ 活動スケジュール（P.22-23）

○ 協議会は本日を含め全 3 回を予定しており、第 2 回は 11 月を目途に開催し、各部会の活動進捗や課題等を共有する予定である。第 3 回は年度末 3 月に開催し、年間の活動成果や次年度の方針を共有する予定である。なお、部会の開催に関しては、各部会で調整・企画し、開催をしていく。

7. 意見交換（事務局）

■ 意見交換（P.24-25）

（発言者A）

○ 意見交換の議題として、サービス実装に向けた連携や協力、広報・コミュニティ活動の活性化などが挙げられると考えている。特に西新宿スマートシティ協議会という組織の在り方は全国的に関心も高いと感じるため、積極的にメディアでの発信をしていくことも大切だと考えている。

○ 西新宿エリアは公開空地だけでなく道路も含めて新しい取り組みの目標になると考えている。協議会においては、西新宿の活動報告だけでなく目標やゴール、新しい都市に向かった夢を示すことで、人々の関心が高まる要因になると思うため、広報活動をさらに実施できればと考えている。

（発言者B）

○ スマートポール事業も 3 年目となりデータ利活用を担当しているが、昨年度はプロダクトアウトの面でデータを使ってどのようなサービスを展開するかという議論を、関連する事業者とのディスカッションをしてきた。今年度はスマートサービスにおいて西新宿の関係者による取組の中でデータを使っていただき、制度化していくことが実施できればと考えている。

（発言者C）

○ 西新宿にこれだけ多くの企業と人がいる中で、それぞれが想いを持って活動しているが、具体的な活動については協議会のような場で初めて知ることも多くある。特に広報・コミュニティについては、いかに西新宿の輪を広げていくかが課題となるため、このメンバーできっちり手を組んで輪を広げていきたいと考えている。

○ 今後はデジタルやデータの話が増えると思うが、新宿中央公園では「DIVERSITY PARK IN SHINJUKU」の取り組みや「Candle Night」、ごみを拾いながらランニングをする「Plogging Day@ Shinjuku Central Park」、ヨガイベントなどを行っているため、地場のイベントも活用いただきたい。西新宿でのイベントに関する共有は協議会でも実施したいと考えている。

（発言者D）

○　昨年度はスマートポールで取得したデータをどう活用するかを考えていたが、ゼロから新しいサービスを検討し、データを回収していくことでの難しい部分は多くあった。今年度はデータ利活用部会という場でデータの活用について議論していきたいと考えている。

○　スマートポールの役割やデータの種類などを協議会の中だけではなく、西新宿のみなさまにも周知したいと考えている。

（発言者E）

○　サービスの絵姿を可視化する際に空間の見せ方が大切になっていくと考えている。

○　西新宿では再整備方針が制定され、道路空間や公開空地を変えていくような空間の再整備も一緒に行われていく場所だ。

○　全体の空間を見ながら、デジタル技術やスマートサービスの発展やまちに必要なシーン、人を創造するためのラボ的な機能が必要であるという議論が出ているため、空間と一緒にどのようなサービスが必要かを考えていくことが大切だと考えている。

○　空間の再整備とスマートシティ化が同時に進むことは全国でも非常に珍しく、その連携を進めていくことが非常に重要だと考えている。

（発言者F）

○　東京都内のスマートシティの取り組みは、デベロッパーを中心に実施している地域が多くあり、開発計画の中でデベロッパーの体力に合わせて進めている地域が多くある。一方で、西新宿は空間利用の規制や制限が多い中で開発を進めていることが現状としてあると考えている。

○　西新宿の開発において、良いまちの使い方・使われ方に向けて行政がどのようにチャレンジしていくかが課題であり、民間の皆様や学校の研究を参考にし、実現するための空間の利用や再整備に向けた動きを行政ができるように、産官学がスピード感を持って実施していくことが理想だと考えている。

○　今までは民間の提案に対して行政が悲観的に見て実現できないことが多くあったが、今後は民間からの提案を受け入れて積極的に進めていける姿を実現できると、民間と行政と研究者が同じ目的に向かって連携して進んでいけるのではないかと考えている。

8.　閉会の挨拶（事務局）

■　閉会の挨拶（P.26）

（一般社団法人新宿副都心エリア環境改善委員会）

○　再整備方針を基盤として産官学がチャレンジをしていけるような西新宿の取り組みを実施していきたい。

○　西新宿のコアメンバーが横のつながりを大事にし、垣根を超えて、新しい東京・西新宿を作っていく、また夢の部分と確実に積み上げる部分に関しては、これまで積みあげてきたものを協議会メンバーとともに更に進めていきたいと考えている。

○　コアメンバー間でのコミュニケーションを大切にする中で、様々な取組にチャレンジしていけるようにしたい。

以　上